

樽前山

○ 火山活動評価：やや活発な状況

A 火口及びB 噴気孔群では高温の状態が続いていると推定され、火山活動は引き続きやや活発な状況です。火口周辺では注意が必要です。

活発	第101回予知連(2005.6.21)												
やや活発	による評価以降の活動状況												
静穏													
	2005				2006				2007年				

○ 概況

・ 噴煙及び熱活動 (図 2)

A 火口及びB 噴気孔群の噴煙高度は概ね100m以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

・ 地震活動 (図 2、図 3、表 1)

火山性地震は1日あたり0~7回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。求まった震源は山頂ドーム直下のごく浅い所に分布し、これまでと特に変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動 (図 4、図 5)

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

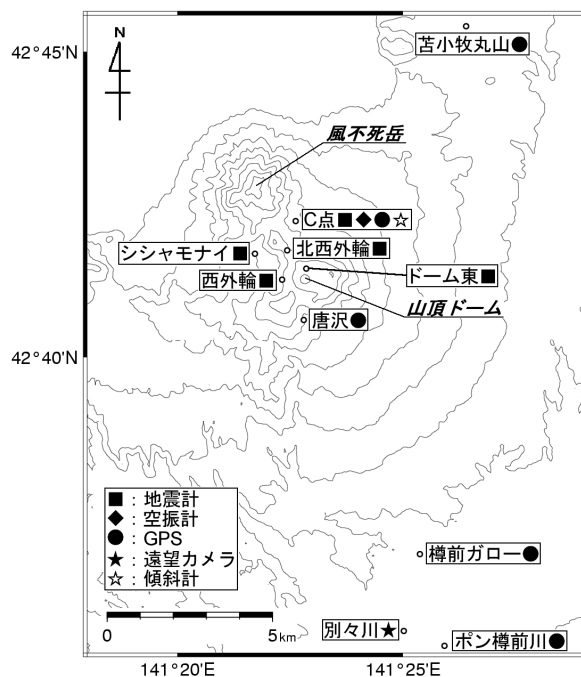


図 1 樽前山 火山観測点配置図

※ 資料は気象庁のほか、独立行政法人産業技術総合研究所、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています (承認番号 平 17 総使、第 503 号)。

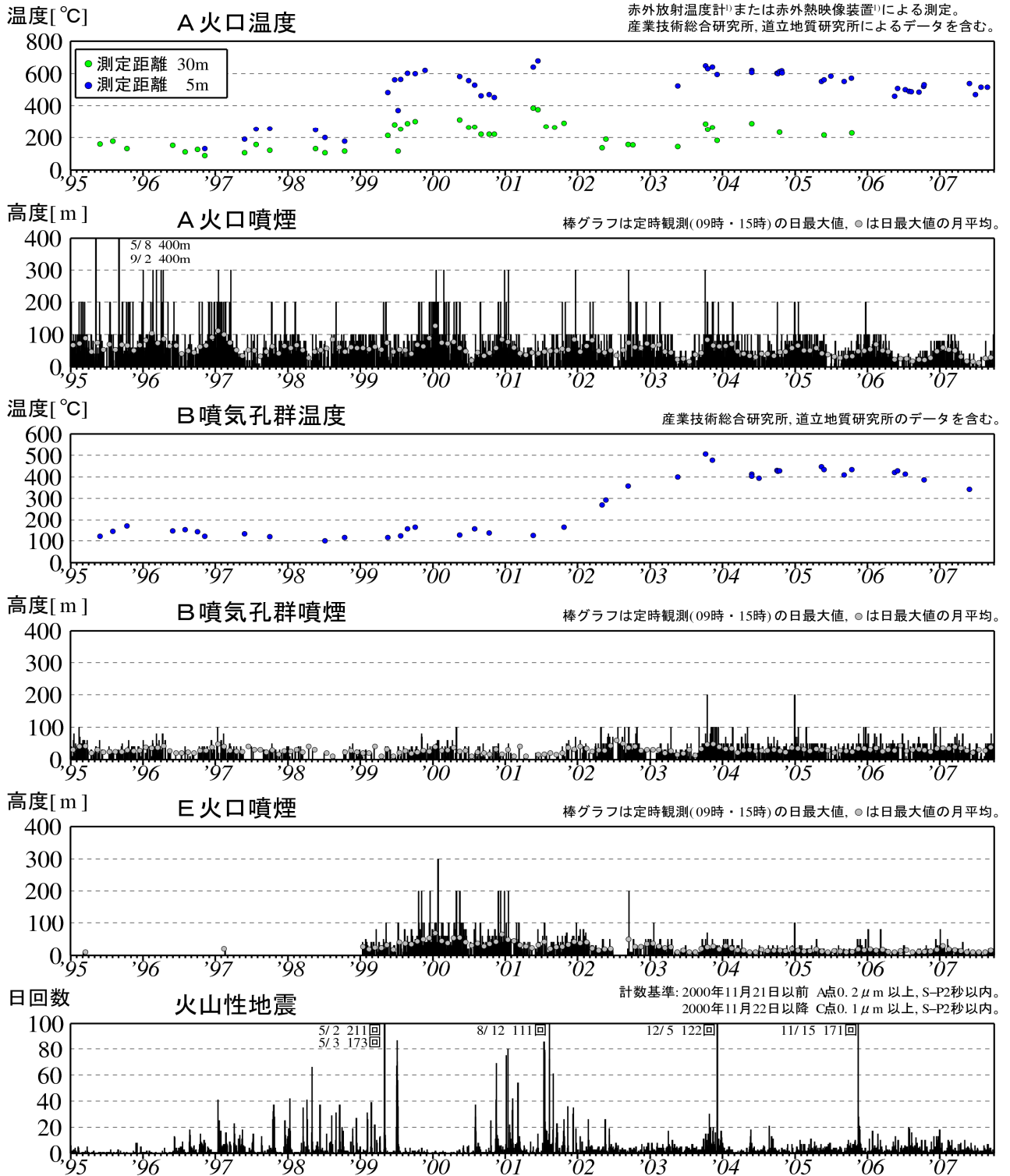


図 2※ 樽前山 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2007 年 9 月）

- ・ A 火口の温度は 1999 年から、B 噴気孔群の火口温度は 2002 年以降高温の状態が続いています。
- ・ 地震回数は 1996 年以降増減を繰り返しています。2005 年 11 月に一時的に地震が増加しましたが、その後は少ない状態で経過しています。

1)赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

表 1 樽前山 地震・微動の月回数 (C点 : 図 3 の TARC)

2006~2007年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
地震回数	49	28	123	42	87	40	49	56	45	29	57	42
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

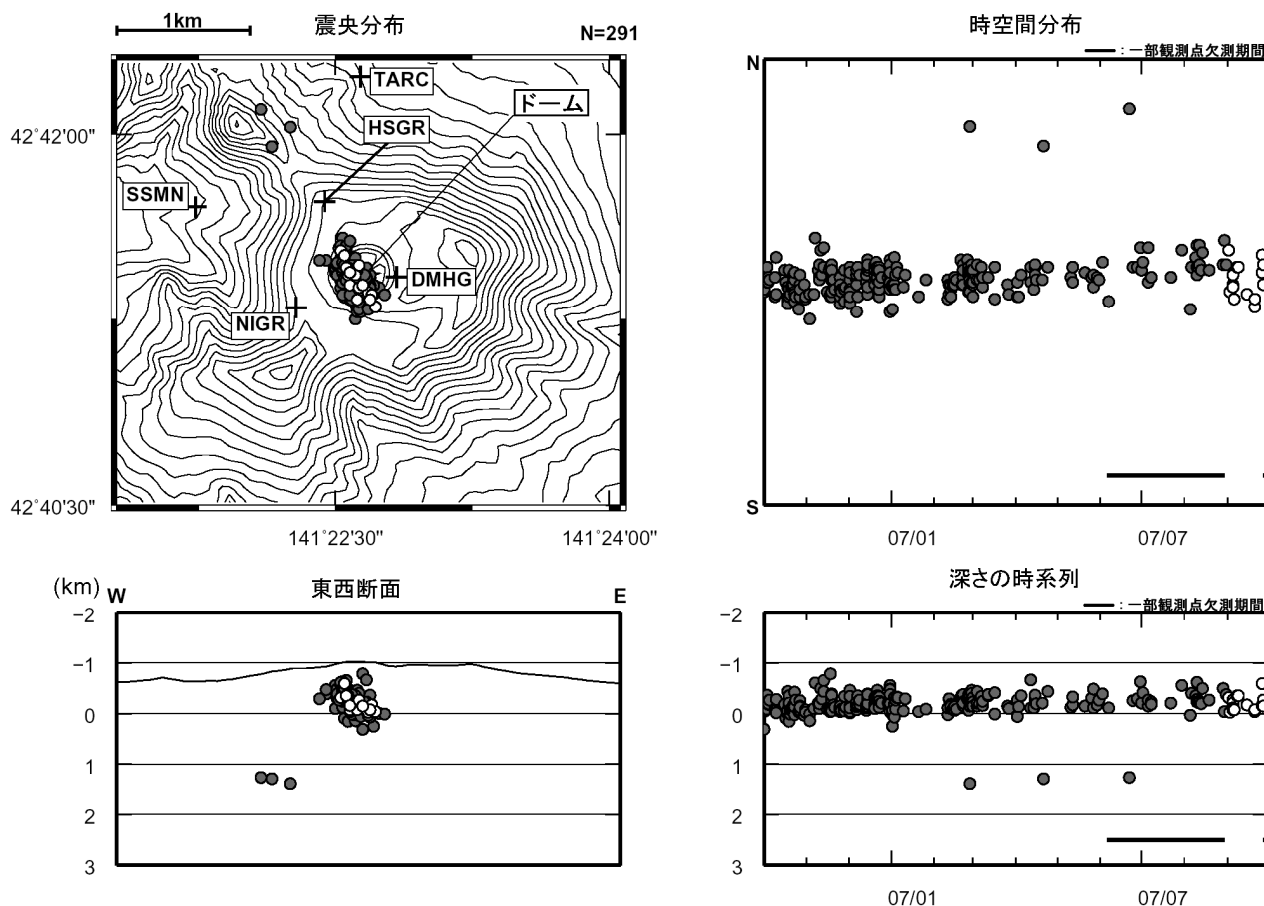


図 3 樽前山の震源分布図 (2006 年 10 月~2007 年 9 月、+印 : 地震観測点)

表示期間中、2007 年 6 月 6 日~2007 年 8 月 30 日及び 2007 年 9 月 27 日~2007 年 9 月 30 日の期間は、一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

○印は今期間 (2007 年 9 月) の震源

●印は前期間までの 11 ヶ月間 (2006 年 10 月~2007 年 8 月) の震源

・前期間までの震源は山頂ドーム直下のごく浅い所 (山頂から深さ 0.5~1km 付近) に集中し、ドームの北西 1.5km 付近の浅い所にも分布しています。今期間に求まった震源もこの領域内に分布しています。

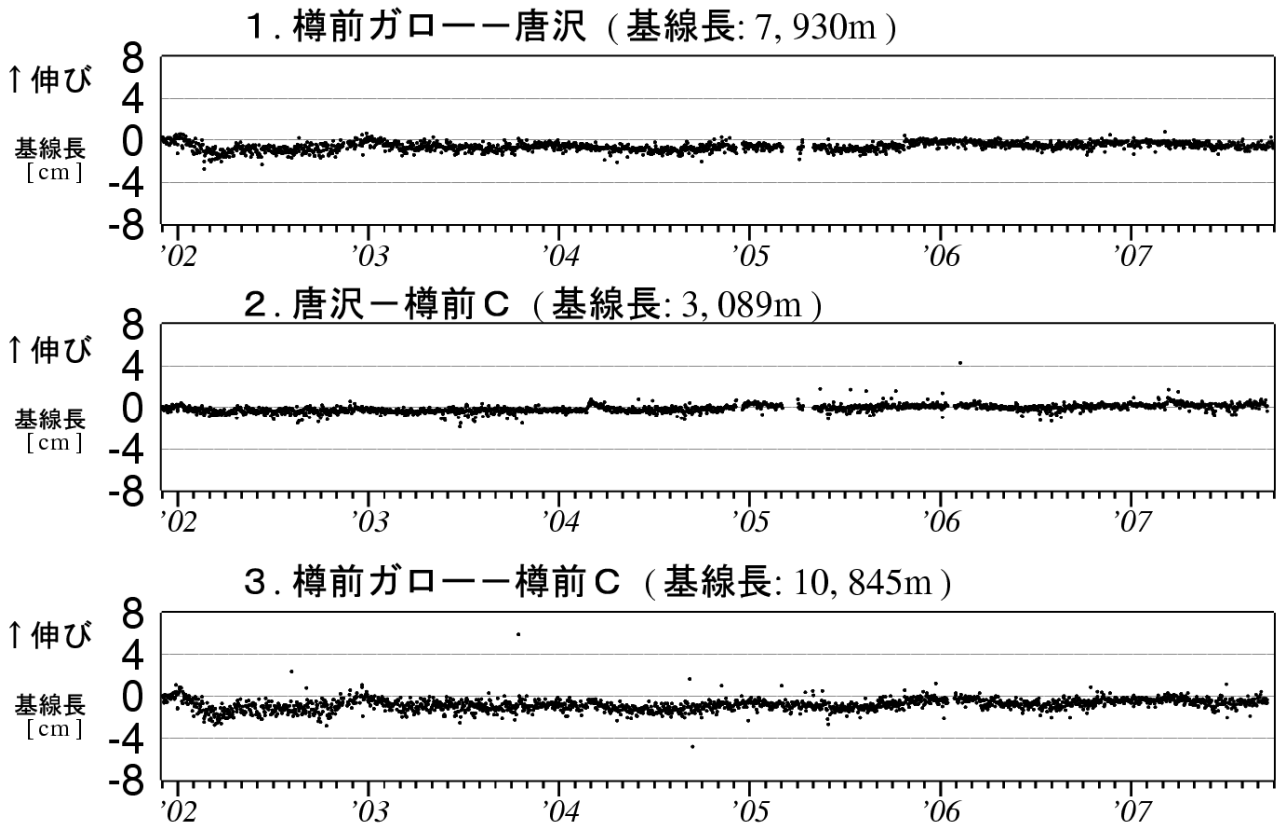


図4 樽前山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 12 月～2007 年 9 月)

グラフの空白部分は欠測

図4の1～3は、図5のGPS基線①～③に対応しています。

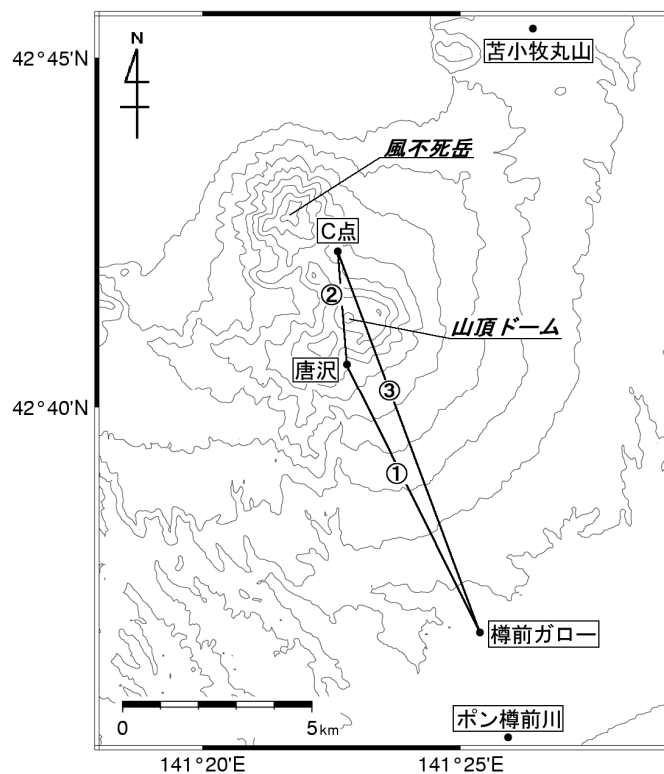


図5 樽前山 GPS 観測点配置図